**地蔵菩薩坐像**

15世紀に造られたこの木像は建長寺の本尊である地蔵菩薩を模っています。地蔵はしばし仏教の僧として描かれ、冥界から苦しむ魂たちがいなくなるまで完全な悟りを開かないと誓ったとされます。地蔵は慈悲深い1尊であり、旅人や子供たちの守護者であると考えられています。

しばし赤い帽子と胸当てを身に着けた小さな地蔵の像は一般的には日本のお墓や道端に見られます。しかし、地蔵が大きな寺の本尊になることは珍しいことです。

建長寺が1253年に建立される前、境内の一画は処刑場でした。処刑された者たちのためにお祈りができるように、そこには地蔵の像が祀られていました。建長寺が建立されると、僧たちがその使命を引き継ぎました。

お祈りをするためには、何か大事なもののことを考えながら、手のひらを合わせ、深く頭を下げましょう。お祈りの後は、木の賽銭箱へとお金を任意で寄付することもできます。